

## 台風はいいヤツ?わるいやツ?

### - サンゴと台風 -

ずいぶん遠くを通っただけですが、7月になってようやく今年も台風がやってきました。ずいぶん遅かったように感じますが、研究所にある記録をみると、1999年からの10年間で最初の台風が来た月は、5月が3回、6月が2回、7月は今年を入れて5回で、実は一番多いのです。台風が近づくたびに、船をあげたり、外の物をしまったり、めんどろな仕事が増えていやだなあと感じます。来たら来たで、港や道路やいろんなものをこわしてしまうし、砂や葉っぱを飛ばして散らかすし、やっかいなことだらけです。けれども、台風はたくさんの雨を降らせてくれますから、もし来なければ、夏場、水不足になってしまい、それはそれで困りものなのはみなさんも知っているとおりで。

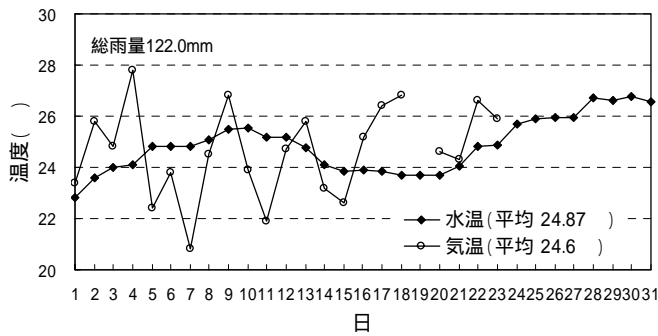
さて、それでは海の中では、どうでしょうか。台風の高い波や強いうねりは、ときどきサンゴをこわしてしまいます。たとえば、1999年には、マエノハマで調

べていたサンゴが191群体から125群体に減ってしまい、その原因はこの年の9月に直撃した台風18号にこわされたのだらうと考えています。およそ35%のサンゴがやられてしまった計算になりますが、こんなに大きな被害がでたのには、たぶん前年1998年の白化現象で死亡したサンゴが影響しているのだらうと想像しています。つまり、死んで1年たって骨格がもろくなっていた死サンゴが台風の波でこわされてしまい、それが海底を転がりながら、まわりの死サンゴや元気に生きているサンゴにぶつかってこわしていき、どんどん被害が大きくなっていったのではないのでしょうか。

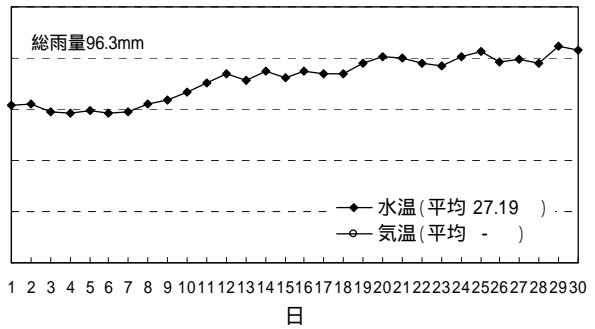
では、そうやってこわれたサンゴはどうなるのでしょうか。以前にアムスルだより(No.9)でもお話したのですが、こわれてかけらになったサンゴも、海底を転がってたどり着いた先に住みやすい環境が整っていれば、また元気に成長をはじめます。けれども、もちろんそうとは限りません。台風のと、サンゴのかけらは、波で吹き集められた砂や小石、ごみなどに埋もれていることも少なくありません。埋もれたサンゴは、新鮮な海水や日光が届かないために死んでしまうでしょう。台風でサンゴがかけらになって吹き飛ばされることは、普段は移動できないサンゴが、新しい生活場所を見つけるチャンスであるという点では良いので

## 定点観測

2008年 5月



2008年 6月



すが、埋もれたりして死んでしまう可能性も低くないので考えものです。

同じ吹き飛ばされるのでも、サンゴでないほかの生物の場合もあります。たとえば、去年（2007年）の夏、マジノハマの岩の上にはソデガラミという海藻がたくさんはえていました。調べてみると、海底のおよそ20%がこの海藻に覆われている状態で、これまでに見たことのない、気味の悪い景色でした。ソデガラミは、細長いゴワゴワした枝をたくさん伸ばして球状の塊になる海藻です。じっくり観察してみると、そのソデガラミの塊はサンゴにも覆いかぶさっていて、根元が白化しているものや、もうすでに死んでいるサンゴも見つかり、このままではサンゴがたくさん殺されてしまう危険な状態でした（冒頭の写真が、枝状のコモンサンゴをおおうソデガラミで、このサンゴの根元はもう死に始めていました）。どうしたものかと困っていたところにやってきたのが、台風4号でした。台風4号は、その強い波で、たくさんのソデガラミを一気にはぎ飛ばしてしまったのです。新港のスロープや慶留間の道をこわすなど大きな被害を残したやっかいな台風でしたが、この台風が、海の中ではたくさんのサンゴの命をすくってくれたのでした。

また、台風が来ないと、海水の温度が高くなって海の生き物に悪影響を与えることがあります。知っている人も多いと

思います。先ほど書いた1998年のサンゴの白化もそれが原因と考えられています。じつは、今年も海水温が上がってきていたので、それが心配でした。実際にクシバルのイノーの中のハマサンゴのいくつかは、少し白化し始めています。この台風7号のおかげで水温が下がり、サンゴたちが白化をまぬがれるように期待しているのですが、どうでしょうか。しばらく注意して観察したいと思います。

### 阿嘉島の海より

5月27日、阿嘉小学校のサンゴ産卵観察会が行われました。この産卵観察会も今年で4回目となり、学校行事の恒例となった感じです。今年の産卵は20日の満月からかなり遅れるだろうと予想して子供たちには21日から1週間待機してもらいました。遅れると予想はしていても、なかなか産卵しないサンゴに不安も感じましたが、最終日ようやく観察会を行うことができました。当日は天候もよく、満月から1週間遅れたことで水深も浅くなって、子供たちが観察するには最適な条件でした。ただ心配なのは、マジノハマのサンゴが年々減っていることです。これからもずっと観察会が行えるようにみんなで海の環境を守っていかなくてはなりません。

